

3月1日に竣工・開館したフィリピンのモンテンプル博物館からの招待を受け、フィリピンを訪問していた、加納莞薔の四女・加納佳世子・加納美術館名誉館長と加納二郎・加納美術振興財団理事長夫妻がこのほど帰国されました。

加納莞薔は、先の大戦中マニラ市街戦で妻（アリシア）や3人の子供を日本兵に殺された当時のキリノ大統領に宛てて、怨念を超えて「ゆるしがたきをゆるす」という崇高な理想を説く手紙を何通も粘り強く送りました。その結果、キリノ大統領は日本人戦犯に特赦を与えるという英断を下しました。

同博物館には、そのキリノ元大統領を顕彰するコーナーが設けられ、加納莞薔が送った助命嘆願書も展示されているそうです。

また、この話に感銘を受けた米子市在住の人形作家・安部朱美さんは「平和への祈りーアリシアと3人の愛児たち」という作品を加納美術館に寄贈していますが、このほど同じテーマの作品をもう一体制作し、加納夫妻に同道し、モンテンプル博物館に寄贈しました。その人形も同じコーナーに展示されているそうです。（新聞記事の写真ファイルはいずれも加納二郎氏の提供）